



平成 19 年 5 月 1 日

国土交通省道路局長 様

土佐町長 西 村 卓 士



## 中期的な計画への意見書

### (国道)

本町の主要幹線道路として国道 439 号線が東は本山町から西はいの町（旧吾北村）へと町を横断するように走っており、県西部地域への最短ルートであり、本町はもとより嶺北地域の発展には最も重要な路線となっています。

しかしながら、当路線にはいまだに一車線区間の所があり通行に支障を来しています。特に、本町の西の玄関口（石原地区）においては、急勾配、急カーブが連続しており、事故も多発しています。また、冬期には降雪及び路面凍結で交通の難所となっています。

これらの諸問題の抜本的な解決を図るべく、早期整備に尚一層のご高配を賜りますように要望いたします。

### (県道)

本町と県都・高知市を結ぶ路線として主要県道高知本山線が南北に縦断するように走っており、産業、経済、文化交流の中心的役割を果たしている最も重要な路線となっています。

しかしながら、当路線は幅員が狭いうえ、急勾配、急カーブ、落石、濃霧からなる通行支障、或いは冬期の凍結や積雪等による通行止めなど度重なる通行に支障をきたしている現状であり、これらの諸問題の抜本的な解決を図るべく、昭和 47 年高知本山線期成同盟会発足、昭和 63 年主要県道高知本山線榎山ずい道早期建設促進期成同盟会結成以来、榎山トンネルの早期建設には積極的な要望活動を実施してまいりました。

榎山トンネルの完成および当路線の整備により、嶺北地域の産業経済上の活用路線として、更には、今後非常に確率の高いと危惧されている南海地震発生

時における高知市内、沿岸道路と国道439号線を最短で結ぶ避難道路としても、本県にとっての効果は計り知れないものがあると考えられます。

また、本町の西部地域を南北に縦断している県道高知伊予三島線について、未整備区間がほとんどで、急勾配、急カーブ、落石等、通行には非常に危険箇所が多いうえ、更には峯石原から南川に通じる区間においては大型車両のすれ違い困難区間が多く、一般の通行はもとより、緊急車両の通行にも支障をきたしております。

これらの諸問題の抜本的な解決を図るべく、局部改良整備に尚一層のご高配を賜りますように要望いたします。

#### (市町村道)

本町には136路線、総延長139.4kmの町道があります。

その殆どが未改良のうえ、道路幅員は狭く、急勾配、急カーブ、が連続しているとともに、大型車両のすれ違い困難区間が多く、一般車両の通行はもとより、緊急車両の通行にも支障をきたしている箇所が非常に多くあります。

特に、中山間地域での交通のアクセスとして自家用車は無くてはならないものであり、日々の生活にとって欠かせないものであります。しかし、著しく高齢化が進む今日では中山間地域での道路事情は、最も重要な問題でもあります。

こういった状況の中、町道伊勢川線においては、延長3.2km区間の改良を計画、平成6年度より事業が開始され、平成18年現在2.4km区間の改良整備が完了、この13年間で75%の進捗であります。この路線沿線には3集落（上野上、伊勢川、溜井）があり、地元集落にとってはこの路線の早期完成が永年の悲願であります。

また、町道平石線においては、延長1.8km区間内の局部改良事業を平成18年度より取り組んでいます。当路線は、非常に道幅も狭いうえ普通乗用車のすれ違いができない非常に危険な箇所が多くあり通行に支障をきたしています。この路線沿線には2集落（平石、栗木）があり、地元集落にとっては早期に安全な通行の利用ができることが悲願であります。